

研修会報告：「DC 警察による安全対策セミナー」

講演： ブレット・パーソン警部補(コロンビア特別区首都警察)

研修担当理事：佐藤充孝



10月26日(金)、ワシントン日本商工会(JCAW)は、在アメリカ合衆国日本国大使館との共催により、K&L Gates LLP 事務所において、コロンビア特別区首都警察(DC 警察)・パーソン警部補を講師としてお招きした「DC 警察による安全対策セミナー」研修会を開催致しました。45名の出席者にご参加頂き、冒頭、大使館・向総務総括公使よりご挨拶を頂きました。

一見安全に見えるワシントンDCですが、9月にはNW地区ローガンサークル付近の路上において、平日午後8時頃にジョギングをしていた女性が刃物で刺殺される事件など、殺人、強盗、強姦、暴行傷害といった凶悪・粗暴犯罪の発生率は全米平均の約2.5倍にのぼり、特に殺人は前年対比で43%増加していることはあまり知られていません。

DC 警察では市民の安全確保のため、「スペシャル・リエゾン・ブランチ」(<https://mpdc.dc.gov/sld>)と称する組織の下、コミュニティ毎に「アジア」「聴覚者障害者」「LGBT」「ラティーノ」という4つのリエゾン・ユニットを設け、それぞれのコミュニティ特性に応じた対応を行っています。「アジア・リエゾン・ユニット」(<https://mpdc.dc.gov/node/138712>)では、911(緊急通報用電話番号)における日本語を始め、韓国語・ベトナム語・中国語・広東語・タイ語の24時間365日通訳サービスなど、きめ細かいサービスを提供しています。「アジア・リエゾン・ユニット」の電話番号は202-487-3901にて、日頃から携帯できるものに記録しておくとか何かと安心かと思われます。是非、ご家族・ご友人にもお伝え下さい。

講師のパーソン警部補は、DC 警察において約 25 年のキャリアを有し、現在は「スペシャル・リエゾン・ブランチ」を指揮監督する立場から、現場に即した情報に基づいたパワフルかつユーモア溢れるご講演を頂きました。「一つの犯罪が、池に小石を落とした際の波紋のようにコミュニティに広がっていく」と表現、中国人コミュニティにおける「振込み詐欺被害」の蔓延を一例として挙げるなど、コミュニティ別対応の重要性が力説されました。

日常生活の中では、加害者・被害者共にアルコールが絡んだ犯罪や「ながらスマホ」の危険性について「自分の身は自分の意識によって守らなければならない」との指摘がありました。多発する自動車車内盗難については「外から見える場所に物を置いてはならない。貧困者や空腹者にとっては、傘やタバコ、スナックであっても盗みたい衝動に駆られる。パトカーでも車上荒らしは起きている」とのコメントもありました。

また、無差別乱射事件から生き残るためのポイントとして、国土安全保障省とテキサス州ヒューストン市が製作したビデオ「Run>Hide>Fight(逃げる、隠れる、戦う)」([https://www.youtube.com/watch?v=tCEuKEIbB\\_M](https://www.youtube.com/watch?v=tCEuKEIbB_M) (日本語字幕付))が紹介されました。6分弱のビデオですので、是非視聴頂ければと思います。

多くの日本人も利用するライドシェアリングサービスにおける注意点としては、自動車の GPS 位置情報には常に留意し、何か疑わしいことがあれば乗車しない、自分からは名乗らない、といったアドバイスもありました。

活発な質疑応答もあり、参加者からは「日常では警察に近づき難いイメージがあるが、このような機会に非常に大切な情報を得ることが出来て大変満足」「非常に迫力あり有益。とても印象的」といった感想を頂きました。

今回の研修に際し、会場をご提供頂いた K&L Gates LLP 事務所、本研修実現に向けて多大なるご尽力頂きました向公使、杉田副領事、廣吉警備班長を始めとする大使館ご一同様には、この場を借りて御礼申し上げます。

